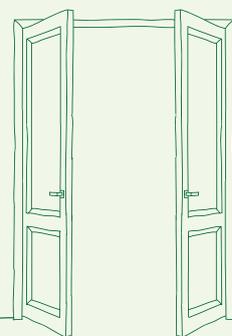


私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.37



69歳でもここでは「若手」、新天地で自らの役割を発見！

元東京都職員

村田 和則さん (69歳)

平成28年退職



【むらた・かずのり】昭和25年長野県出身。昭和44年に東京都庁入庁後、物価局・消費者センターを皮切りに企画審議室、政策報道室、総務局大島支庁等。東京都市長会事務局次長、共済組合財務課長、財務局検収課長統括等を歴任し平成22年に都庁退職。同年、株式会社日本宝くじシステムに再就職し、平成28年3月に退職。平成29年4月より岡山県美作市の地域おこし協力隊として活動している。

——村田さんは平成29年4月、東京から岡山県美作市に移り住み、地域の課題解決や活性化、新たな生業の創出等を任務とする「地域おこし協力隊」の一員として活動されているようですが、美作市を選ばれた理由は何だったのですか。

私は東京都庁を定年退職後、再就職をして働いていたのですが、再就職先を定年になつた後も、路面に張り付く、ぬれ落ち葉のように妻にピッタリ張り付いて離れないような生活をしたくないし、元気で働き続けたいと考えていました。

その一方、定年退職後は温暖で安全な地域で暮らしたいという願望があり、岡山県候補の一つでした。そんな私の思いにヒットしたのが、美作市の「お試し住宅」と「地域おこし協力隊」です。退職後、「今後どうしようか」と考えながらインターネット検索している中で見つけました。

お試し住宅は移住希望者を対象とした賃貸住宅で、お試し期間中に地域の気候や近所付き合ひ、生活環境等をつぶさに体験できます。本格的に移り住む前に地域の暮らしが合うかどうか確認できる点も、背中を押すきっかけとなりました。

——そのことに対し、ご家族の反応は？

当時10歳だった娘を過保護にしていたという反省から私自身、子離れをすべきに限られ、自分のやりたい仕事が見つから

ないということを家族に説明しました。そこで理解を得て、単身赴任という形で美作市に移住しました。

——移住されてみて、いかがでしたか。

私が住む地区は比較的居住者が多く、徒歩圏内に郵便局や農協、小さな商店もあります。大きな買い物をするには車で30分ほどかけて街へ出なければなりません。また、1年目の冬に1m近い積雪があり、当初抱いていた「温暖な地域」というイメージは覆されました。

とは言え、地元の人たちが自家栽培の野菜を届けてくれたり、何かと気にかけてくれて、ウェルカムな思いがあふれていると感じています。

——地域おこし協力隊として、具体的に、どのような活動をされているのですか。

任務としては、市の観光振興会事務局で予算・決算などの財務会計処理を行うとともに、観光振興イベントの企画立案から実施までを行っています。

任務以外では、地区の活性化推進委員会のメンバーとして、こんにゃくやそば粉といった地域特産品の製造・販売を支援したり、お試し住宅の維持・管理業務、高齢者福祉センターの管理業務や受託予算の執行管理も担当しています。

——活動の中で大変なことは何ですか。

私が活動しているのは高齢化率が高く、居住人口が少ない地区です。田舎生活は

「ギャラリー山村茶屋」の
プレオープンの様子



「梶並地区活性化推進委員会」のメンバーと一緒に地域
特産のこんにゃく芋の皮むき作業



ギャラリーの外観。古民家ブーム
であっても汚い古民家は望まれないことを肝にすえ自らの手で整備



ギャラリー内の備前焼コーナー。来館者をがっかり
させないように開館日と時間を厳守している



地域のイベントで特産品を販売

都会人が思うほどゆっくり時間が流れてはならず、皆が多忙な暮らしを送っている印象です。そうした中、イベント当日こそ総出で取り組むものの、準備などに時間を割いてもらうことは^{はばから}憚れ、細かな準備はほぼ1人で行わざるを得ない状況です。また、多くの活動を同時並行で行っているため、一つひとつの事業に対し関係者の満足度が低いのではないかと反省しています。

——**やりがいを感じるのとはどんな時ですか。**——

新規で開催するイベントでは、企画からチラシのデザイン・印刷発注・配布、広報・報道対応、事前準備までほぼすべてに取り組むため、時間配分やスケジュール管理が大変です。しかし、その分、皆の協力で無事に終了した時の満足感は高く、やりがいを感じます。

——**その他、個人の活動として古民家でギャラリーも運営されているそうですが。**——

移住2年目から古民家を借りて「ギャラリー山村茶屋」を運営しています。

この古民家がかつて地域おこし協力隊がイベント会場として活用した際にはテレビでも紹介され、地域のランドマーク的な施設でした。しかし、人通りも居住者も少ない場所にあるせいか、その後は物置程度にしかなわらず、倒壊寸前となっていました。

私は「この古民家を地域の人が集まり楽しめる拠点として賑わいを醸成できた

ら：」と考え、ギャラリー開設を計画しました。もともと所有者が解体予定だったので、自力で床や天井を張替えてリフォームしました。作品を飾る展示台や来場者のための長椅子なども自作し、無事オープンさせることができました。

——**どんな作品を展示されているのですか。**——

地域を巡る中で、陶器や絵画、織物、ハンドクラフト等の作品を制作する地元作家が多いことに気づきました。それが、ギャラリー開設のヒントとなりましたし、地域の人々が集うことを目的としていますので、できるだけ身近な地元作家の作品を展示しています。

——**今後やりたいことはありますか。**——

今年3月末をもって、私の地域おこし協力隊としての任期は終了します。終了後は、地域に雇用を生み出すことと地域おこし協力隊で創設した事業を引き継ぐことを目的に法人を設立し、美作市に住み続けるつもりです。

——**最後に、現役世代へのメッセージをお願いします。**——

私は「体が自由になるうちは、体と頭を働かせよう。まだまだ新しい経験はできる！」を自らの戒めとしています。69歳の私でも、この地域では「若手」です。「始めるのに遅過ぎるということはない」ですよ。

——**今後益々のご活躍を期待しています。**——